



## 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL (03) 3270-2701  
FAX (03) 3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2024/04/24  
SDS整理番号 16533250

製品等のコード : 1653-3250、1653-3270、1653-3280

製品等の名称 : プロピレングリコール (1,2-プロパンジオール)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) 可溶化剤、賦形剤、溶媒、化粧品添加物、医薬部外品添加物、医薬品添加物など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分に該当しない  
自然発火性液体 : 区分に該当しない

## 健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分に該当しない  
急性毒性 (経皮) : 区分に該当しない  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない  
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分3 (麻酔作用)

## 環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性) : 区分に該当しない  
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分に該当しない

注意喚起語: 警告

## 危険有害性情報

眠気又はめまいのおそれ

## 注意書き

## 【安全対策】

ミスト、蒸気などの吸入を避けること。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

## 【応急措置】

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は医師に連絡すること。

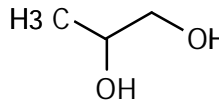
## 【保管】

湿気、直射日光を避け、容器を密閉して換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、



現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	:	化学物質
化学名	:	プロピレングリコール (別名) 1,2-プロパンジオール、プロパン-1,2-ジオール、 1-メチルエタン-1,2-ジオール (英名) Propylene glycol、1,2-Propanediol (TSCA名称)、 Propane-1,2-diol (EC名称)、 1-Methylethane-1,2-diol
成分及び含有量	:	プロピレングリコール、 98.0%以上
化学式および構造式	:	CH <sub>3</sub> CH(OH)CH <sub>2</sub> OH、 C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> O <sub>2</sub> 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	76.10
官報公示整理番号(化審法)	:	(2)-234「プロパンジオール」
(安衛法)	:	2-(8)-321、 2-(8)-323
CAS No.	:	57-55-6
EC No.	:	200-338-0
危険有害成分	:	プロピレングリコール

### 4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合は外し、洗浄を続ける。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 少量であれば、コップ数杯の水を飲ませ、体内で薄める。 多量であれば、多量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:	:	吸入 ; データなし 皮膚 ; データなし 眼 ; 発赤、痛み 経口摂取 ; 下痢、腹痛

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧など。 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性	:	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	火元への燃焼源を遮断する。 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は風上から行き、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、ミスト、蒸気などを吸入しない。 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	:	乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で適正に廃棄処理する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、密閉できる容器などに回収する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- 二次災害の防止策
  - ：危険でなければ漏れを止める。
  - ：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
  - ：周辺の発火源を速やかに取除く。
  - ：排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
  - ：裸火禁止。強力な酸化剤との接触禁止。
  - ：引火点(99 )以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
  - ：ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
  - ：炎、火花または高温体との接触を避ける。
  - ：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気  
安全取扱い注意事項
  - ：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
  - ：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
  - ：屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
  - ：容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
  - ：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
  - ：取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避
  - ：炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管  
技術的対策
  - ：保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
  - ：保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふぎ、かつ天井を設けない。
  - ：保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
- 保管条件
  - ：直射日光や高温多湿を避けて保管する。
  - ：容器を密閉して冷暗所に保管する。
  - ：必要に応じ施錠して保管する。
  - ：貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
- 混触危険物質  
容器包装材料
  - ：強酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなど）
  - ：ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

本品のデータなし。  
類似化合物の1-プロパノール(CH<sub>3</sub>CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>OH、CAS No.71-23-8)のデータを示す。

【 :良好    :やや良好(条件による)    :やや不良    x:不良    -:データなし 】

スチレングム	クロロプレングム(ネオプレン)	ニトリルゴム	ブチルゴム
天然ゴム	シリコーンゴム	フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)	テフロン
軟鋼	ステンレス(SUS304)	SUS316	チタン
アルミニウム	銅	ポリプロピレン	
塩ビ	硬質塩ビ	ポリスチレン	A B S
ナイロン	アセタール樹脂	アクリル樹脂	x
		ポリカーボネート	ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度
  - ：設定されていない。
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
  - 日本産衛学会
    - ：設定されていない。
  - ACGIH
    - ：設定されていない。
- 設備対策
  - ：この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
  - ：取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具
  - 呼吸器の保護具
    - ：呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
  - 手の保護具
    - ：保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。
  - 眼の保護具
    - ：保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
  - ：長袖作業衣を着用する。
  - ：必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策
  - ：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
  - ：取扱い後はよく手を洗う。
  - ：保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 粘稠な液体。吸湿性あり。
色	: 無色
臭い	: 無臭
pH	: 中性 pH6 ~ 8 (10%水溶液)
融点	: -59
凝固点	: データなし
沸点	: 188
引火点	: 99 (密閉式)
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: 下限 2.6 vol%                    上限 12.6 vol%
蒸気圧	: 10.6 Pa (20 )
相対ガス密度 (空気 = 1)	: 2.6
密度又は相対密度	: データなし
比重	: 1.038 ~ 1.039 (20/20 )
溶解性	: 水に極めて溶けやすい(混和しやすい)。 エタノール、ジエチルエーテル、クロロホルム、アセトンに 溶ける(混和する)。
オクタノール/水分係数	: log Pow = -1.4
発火点	: 371
分解温度	: データなし
粘度	: 56.0mPa·s (56.0 cP) (20 )
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類	
引火性液体	: 引火点99 [密閉式] (ICSC (J)) は、 > 93 であることから、 区分に該当しないとした。
自然発火性液体	: 発火点371 (ICSC (J)) であり、常温では発火しないと推定で きるため、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)	: 通常取扱条件において安定である。 吸湿性がある。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
避けるべき条件	: 高熱、日光、裸火、静電気、スパーク
混触危険物質	: 強酸化剤 (塩素酸Na、過塩素酸Na、過酸化水素水、硝酸NH <sub>4</sub> 、 硝酸Naなど)
危険有害な分解生成物	: 熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 区分に該当しない。 ラット LD50 = 20000mg/kg 経皮 区分に該当しない。 ウサギ LD50 = 20800mg/kg 吸入 (蒸気) 分類できない。 吸入 (ミスト) 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: 区分に該当しない。 ウサギ 皮膚刺激性試験 (OECD TG404, GLP) 陰性
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分に該当しない。 ウサギ (2匹) 眼刺激性試験 陰性
呼吸器感作性	: 分類できない。
皮膚感作性	: 区分に該当しない。 ヒトのパッチテストで、皮膚感作性なしの結果。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。
発がん性	: 分類できない。
生殖毒性	: 区分に該当しない。 マウスの二世世代試験で親動物の生殖体および生後の発生指標への 影響はなく、またラット、ウサギ、モルモット、ハムスターで催奇 形成を含む仔の発生への影響はなかった。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 経口ばく露により、ラット、マウス、モルモット、ウサギ、イヌの 高容量で、中枢神経抑制、運動失調、麻酔作用が認められた。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない。  
 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性  
 水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない。  
 魚類 (ファットヘッドミノー) LC50 = 54650mg/L/96H  
 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。  
 生分解性は良好で低蓄積性である。  
 残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度 = 83-96%  
 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Pow = -1.4  
 土壤中の移動性 : データなし  
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
 都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。  
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
 (参考) (1) 燃焼法  
 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。  
 (2) 活性汚泥法  
 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。  
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制 (適用法令)  
 陸上規制 : 消防法、道路法の規定に従う。  
 海上規制 : 特段の規制なし (分類上、非危険物)  
 航空規制 : 特段の規制なし (分類上、非危険物)  
 国連番号 : 非該当  
 国連分類 : 非該当  
 品名 : 非該当  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当 (Z類物質から削除。2021.1.1施行)  
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。  
 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当。  
 ただし、R7年4月1日以降、次のように該当。  
 名称等を表示すべき危険物及び有害物  
 「プロパン-1,2-ジオール (別名プロピレングリコール)、  
 対象重量%は 1」(法第57条の1)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
 「プロパン-1,2-ジオール (別名プロピレングリコール)、  
 対象重量%は 1」(法第57条の2)  
 (別表第9)

優先評価化学物質の評価対象; 人健康影響  
 化学物質排出管理促進法 (PRTR法): 非該当 [2023年 (R5年) 4月1日施行の法改正にも非該当]  
 毒物及び劇物取締法: 非該当  
 消防法: 危険物 第4類引火性液体 第三石油類 (水溶性)、  
 指定数量4000L、危険等級  
 船舶安全法: 非該当  
 航空法: 非該当  
 輸出入貿易管理令: キャッチオール規制 (別表第1の16項)  
 HSコード: 2905.32  
 第29類 有機化学品  
 ・輸出統計番号 (2024年1月版): 2905.32-000  
 「非環式アルコール並びにそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体  
 - 二価アルコール: プロピレングリコール (プロパン-1,2-ジオール)」  
 ・輸入統計番号 (2024年4月1日版): 2905.32-000  
 「非環式アルコール並びにそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体  
 - 二価アルコール: プロピレングリコール (プロパン-1,2-ジオール)」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。